

薬草活用 まちおこし

全国シンポ開幕

村上崇城大特任教授が講演



島原

日本三大薬園跡の一つ「旧島原藩薬園跡」がある島原市で7日、第4回全国薬草シンポジウム（NPO法人島原薬草会主催）が開幕した。崇城大（熊本市）の村上光太郎特任教授が、薬草を活用した健康づくりやまちおこしの事例について語ったII写真。

村上教授は薬学と漢方医学が専門で、国内外で薬用植物の調査をしている。シンポでは、村上教授が「まず道端で薬草を見つけて食べることから始めてほしい」と話し、ツクシをはかまこと空揚げにする調理法などを紹介。かつては庭に生える薬草で腹痛を和らげていたことを挙げ「私たちは自然を生かしていた先人の知恵を忘れてはならない」と指摘した。

会場には薬草の料理や観覧会などでまちおこしに取り組む全国の市民団体も集まり、各活動に協力している村上教授がその魅力を解説した。最終日の8日は、

国指定史跡の旧島原藩薬園跡を含め島原市内を巡る散策がある。

（小川俊二）